伯剌西爾時報

發行所 伯剌西爾時報社
電話 七・四六七〇
社長 黒石清作
Director M Sameshima
購讀料 一ケ年 六十軒
半ケ年 三十軒
廣告は御照會次第御返信

珈琲	
サントス四級 十キロ	一七、八〇〇
リオ七級	一二、〇〇〇

爲替	
對日	四六六五
郷里送金	五六七〇
對米	一九、七七〇
對英	八〇、〇五〇

援蔣借款許容した米の眞意

重慶抗戰で日本の國力摩滅 その間隙に軍備擴張企む

〔上海五日同盟〕米國政府の重慶に對する借款供與に就き、當地の新中國日報は五日、アメリカの暴擧と題する社説を掲げ、今次借款供與が、結局米國政府の利己的立場に出たものなる事を論難、左の如く述べてる

中華日報 社說

今次の借款供與はなか〳〵大掛りではあるが、客觀的に見てこれを以て重慶側の敗戰を轉じて勝利となし得るものでは無く、又主觀的には米國は決して中國が眞の强國となる事を希望した事を意味するものでも無く、米國が借款を與へた理由は、重慶政權をして抗戰を繼續せしめ、以て日本の國力を消耗し、其の間自國の軍備を擴充する爲めで、この點、英國を使つて獨逸の國力を消耗せしめんとしてるのと同樣視される

全國民の哀悼裡

故西園寺公國葬の儀

五日日比谷公園で執り行はる

〔東京五日同盟〕畏くも國葬の令を賜つた西園寺公望公の斂葬の儀は、今五日全國民哀悼の裡に執り行はれた

寫眞は故西園寺公

〔東京四日同盟〕國家の柱石として三朝に仕へ、幕末以來新興日本の青史に不朽の名を留めた元勳西園寺公望公がその偉大なる生涯の最後を飾つて、今日ぞ國葬の十二月五日天地哀愁罩める日比谷公園國葬々場には、畏くも勅使並に皇后、皇太后陛下よりの御使も御差遣になり、內外の高位顯官初め市民數萬が肅然として「歷史の人」に告別し、その勳功を偲び、葬儀は正に古今の盛儀であつた、斯くて靈柩は沿道に堵列した市民の敬悼の眼差しに送られて、落葉散り敷く武藏野の一偶世田ケ谷の墓地に懇ろに葬られ、愛孃新子さん（八郞夫人）の禮と共に肅々たる松籟を聽きつゝ永遠の眠りに入つた、柩前祭の儀、最後の通夜に明けたこの朝、午前六時故公の英靈眠る外相官邸淸新の間は最後の裝飾が施され、哀しくも嚴かに柩前祭の儀が行はれた、富田葬儀副委員長、橋本司祭長、吉田副司祭長等着席、やがて[illegible]々した朝の空氣を震はせて樂の音が奏せられ、司祭長は靈前に參進して、少年時代から晚年に至る公の大なる生涯を縷々述べ、告別の祭詞を奏する、次で喪主以下遺族親族一同奏送する公の靈に、淚の訣別をして退下、柩前祭の儀を終つた

靈車發引の儀

斯くて同八時卅二分近親者と家從等は靈柩を黑褐色、漆塗の靈車に移し、外相官邸を後に靈車は日比谷へと哀しき行進を起した、この頃外相官邸から日比谷に到る街頭には各種學校、團體の人々が肅然と聲を呑んで低頭、元老西園寺さんにお別れの默禱を捧げ、又沿道の左側には稻葉中將總指揮の陸軍儀杖隊、步兵二ケ聯隊、騎兵一ケ聯隊、砲兵一ケ聯隊、海軍儀杖隊、橫須賀銃隊二ケ大隊が整列、皇后宮御使小出事務官、皇太后宮御使淸閑寺事務官が相次いで參着した、やがて轍のきしりも悲しく、靈柩車は肅々と公園正門から入り、漆黑の布でつくられた幔門の內に停車、こゝで靈柩は靈輿に移された、靜々と幔門が開かれ、齋場正面を仰ぎ見れば式壇も鮮かに

從一位大勳位 公爵 西園寺公望之靈

と大書された丈餘の銘旗が重々しく靈輿の上に垂れ、靈前には故公の勳功を物語る大勳位菊花章以下四個の勳章が燦と飾られてある、勅使、皇族、王族以下喪主親族が幄舍內所定の位置に着席するのを待つて、哀切な奏樂が葬場一帶を這ふが如くに流れ渡る裡に、三陛下より賜りたる神饌が司祭奉仕の下に奉典され次で橋本司祭長が靈前に參進して、切々たる哀惜の祭祀を讀上げれば、喪主八郞氏以下親族は再び三度深く頭を垂れて勅使、各皇族方が玉串を捧げられて御禮拜の後、喪主八郞氏は起つて靜かに靈前に進み最後の默禱を捧げて暫し動くとも見えない、この時幄舍に亘つて整列した陸、海軍軍樂隊の奏する「吹きなす笛」の調べはゆるやかに葬場に流れて悲愁彌增す思ひである、かくて親族を初め葬儀委員長近衞首相、前官禮遇者、各國務大臣、外國大、公使等の文武百官以下万餘の一般市民の蜿蜒たる拜禮の人波が約二時間に亘つて續き、再び幔門が閉ざされて午後零時半頃盛儀を極めた國葬は終つた

元勳の英靈

永遠に神鎭まる

斂葬墓所の儀終了

〔東京五日同盟〕斂葬墓所の儀、日比谷葬場を發した靈車は斂葬奉拜者の哀悼に送られて午後一時半世田ケ谷區若林町松陰神社裏手の西園寺家墓所に到着、斂葬墓所の儀が早朝に執行された、靈柩は先づ家從の人々の手に依つて地下深い石槨に下され、遺族は今し現世から隔てられてる御靈に最後の別れを告げ瞼をしばたいて次第に埋められ行く石の墓誌を見送り乍ら喪主から順次、近親者の手で一握りづつの土がかけられる、淸楚な白木の墓標が建てられると其の左右の燈籠に燈火がともされ、折柄起る奏樂に連れて司祭副長の奉典があり、喪主八郞氏は靜々と進んで拜禮、斂葬の言葉を奏す、次で親族諸員の拜禮あつて墓所の儀を終つたが、午後四時半頃暮なずむ冬枯れの武藏野に白く浮び上つた墓標の「從一位大勳位公爵西園寺公望の墓」の文字も悲しく元勳西園寺公の英靈は永遠に神鎭まつたのである

ルーマニア政府

石油坑區の國有化斷行

アントネスコ首相四日附布告發す

〔ブカレスト四日同盟〕獨軍の進駐以來、ルーマニアの戰時體制は着々進捗を示しつゝあるが、アントネスコ首相は四日附布告を以て同國內の石油輸送パイプ、同吸揚げ施設貯油所並びに石油坑區の國有化を斷行、二週間以內にその手續きを完了せざる所有權者に對しては、保證金を交附せざる旨規定した

時局解說

事變處理に

重大性加重

新日華條約は既に調印を終り、帝國は汪政府を正式支那政府として承認した。反面重慶の蔣介石政府は正式に否認し、抹殺したことゝなるのである。而して次に來るべきものは右に對する諸外國殊に列强の動向が問題だ。英米は擧つて即刻汪政府を否認した上重慶政府の承認繼續を聲明したのみならず、以前にも增した重慶積極援助を具體的に開始した。また日獨伊同盟に好意を示して、一時は日ソ不可侵條約も締結せらるゝであらうとまで云はれて居たソ聯が重慶政府を相變らず承認する事となつた旨AP電は報道した。この報道の眞僞に對し速斷は下し難いが、大陸に驀進する日本抑壓にソ聯の力を借りることが絶對必要である英米が必死の對ソ親善工作を行ひつゝあることは、想像に難くない處であつて、或はこれが奏效してソ聯の重慶承認態度となつて現れたるやも計り難く、事變處理に邁進する帝國にとつて看過し難い重要事態である。

今回政府では無任所相設置單行勅令案と關係勅令改正の件を樞府に對し御諮詢を奏請四日の本會議で可決され平沼騏一郎男を無任所大臣として入閣せしめ內閣の强化を計ることゝなつた。この一事を見ても帝國內外の情勢特に事變處理の前途に重大性が加はつたことを銘記すべきである。

◇

◇

◇

官職なき者も

無任所大臣となし得る

單行勅令案樞府で可決

公布の筈 六日

〔東京四日同盟〕政府は今回平沼男を無任所相として迎へる爲め、內閣官制第十條の規定に準據しこれが補足規定として官職を有せざる無任所相を設置、單行勅令案並にこれに伴なひ關係勅令改正の件を樞府に對し御諮詢を奏請、四日の本會議で可決、來る六日公布される事となつたが、右單行勅令要項並に官制に伴ふ勅令案件は左の如くである

官職を持たざる無任所大臣の設置に關する勅令案要項

（單行勅令）

一、內閣官制第十條の規定に依る場合の外、內閣員に列せしめらるる國務大臣を設くる事を得

一、前項の規定に依る國務大臣は輔弼の責に任じ、その憲法上の地位は各省大臣と同じ

一、前項の國務大臣の員數は三名以內と定む

一、前項の國務大臣は行政長官に非ず、從つて行政事務を擔任せず

一、前項の國務大臣に秘書官を置く

一、前項の國務大臣は各省大臣と同等の俸給を受く

一、前項の國務大臣は定むる所に依り副署を行ふ

內閣總理大臣は主務大臣、並に他の各省大臣と共に副署の場合これを行ふものとす

（改正を伴ふ勅令案件官等）俸給令中改正の件

イ、官等俸給令中第七條を改正、各省大臣の後に國務大臣の字句を附加す

ロ、官等俸給令第十四條を改正す、國務大臣秘書官の字句を附加す

ハ、官等俸給令中別表第表を改正す、內閣總理大臣、各省大臣の表の次に國務大臣別表を設く、內閣所屬部局及び職員官制中改正の件、國務大臣秘書官の字句を附加す、註釋 內閣官制第十條、各省大臣の外特旨に依り國務大臣として內閣員に列せしめらるゝ事あるべし

日本の東亞新秩序全太平洋に擴大せん

外務次官と議員が一問一答

四日 英下院

〔倫敦四日同盟〕英下院に於てバトラー外務次官と議員との間に極東政策に關する英米合作に就き、次の如き質疑が行はれた

プライス勞働黨議員
東南アジア方面の防衛對策に就き、米國政府と協議する意嚮はないか

バトラー次官
英國政府は極東に於て、英米兩國が共同利害を有する總ゆる問題に就き、米國政府と接觸を保つてる

プライス議員
總ゆる問題と關はる餘り海軍問題其の他共同防衛に關する緊欠の問題も含まれてると解してよいか

バトラー次官
この種の諸問題も考慮されてるものと考へてよろしい

ノエルベーカー勞働黨議員
英國政府も米國が供與したのと類似の借款を支那に與へる意嚮はないか

バトラー次官
なし

コクス勞働黨議員
次官は過般下院に於て行はれた太平洋防衛問題に關する、ロシアン駐米大使、ケーシー濠洲公使、ハル國務長官の會談に就き發表する事は出來ないか

バトラー次官
現在の處、發表出來無い

ロバートモーガン保守黨議員
日本はその所謂「新秩序」を支那のみでなく、全太平洋に迄擴大せんとしてるが政府はこれに反對する英米兩國の共同宣言を發すべく米國政府と協議する意嚮はないか

バトラー次官
英國政府は兩國が共同利害を有する總ゆる問題に就き米國政府と緊密な接觸を保つてると云ふ予の答辯にモーガン議員は安心されてよいと思ふ

平沼男入閣により强力政策遂行されん

〔東京四日同盟〕國際難局に對處する高度國防國家建設の要請は、大政翼賛會を中樞として活潑な運動を展開してゐるが、國民生活再編成は同時に政府の强力政策遂行に資する事大なる秋、今回官職に在らざる者をも無任所大臣と爲し得る勅令の制定に依り、日本主義政治力を代表する平沼男の入閣を見た事は、極めて注目に値するものがある

パナマ第三閘門開鑿

米政府入札開始

〔華府四日同盟〕米國政府は去る四月陸軍費軍事豫算としてパナマ運河第三閘門建設起工費一千五百萬弗を（邦貨換算六千四百万円）計上したがパナマ運河當局は右第三閘門開鑿の入札を開始した、右第三閘門は、現在使用中の閘門から約二キロ半の所に建設されるもので現在のものより二十呎廣く、長さ千二百呎幅百四十呎、深さ四十五呎となつてる。今回の開鑿計畫には新ガツン閘門建設部にパナマ運河閘門の乾燥式開鑿も含まれて居り、パナマ運河太平洋口の開鑿工事の入札も近く募集される筈である

蘭印邦人家屋へ反日ビラ投げ込む

石澤總領事嚴重抗議

〔バタビア五日同盟〕去る一日ダンドンの邦人家屋四戸に數枚の反日ビラが投げ込まれた事件が起きたが、石澤總領事は三日ラン印政府に對し嚴重抗議を提出、在留邦人の安全保障を要求中の處、ラン印當局は四日次の如き回答をした

警察當局の報告に依れば、右事件の容疑者として二名のオランダ人を逮捕し、目下未決拘留中で取調べの上、處罰する筈である

內外要人を緊急招集

重慶が軍首腦會議

來る十五日

〔香港四日同盟〕蔣介石は、帝國政府の南京政府正式承認に對處し、今後の諸政策決定の爲め、來る十五日、軍首腦部會議を招集する事となり、一日附地方軍政、官廳に在內外の要人に宛て招電を發した

佛印軍

パンドン島占領

〔紐育四日同盟〕四日當地に達したハノイ電に依れば、佛印當局が佛印軍が對佛印國境のビエン・テイアス南方五十九キロ、メコン河中のパンドン島を占領した旨、發表した

電報

●獨逸、ルーマニア兩國間に期限十ケ年の經濟協定成り調印を終つた

●豊富な石油資源を持つルーマニアも愈よ石油の國家管理を行ふことゝなつた

●イタリー政府は今度十九才以上の男子全部を召集、兵力百二十五萬を增加することゝなつた

●ハンガリー、ユーゴースラビヤ兩代表が會見、相互援助協定が行はれることゝなつた

●ローマ教皇、ルーズベルト大統領、サラザル葡國首相の三人が打合せの結果「もし英國が戰爭中止の勸告を聞き入れた場合、交戰國も中止するや否や」と各交戰國宛て照會を發したと云ふ話である—但ユービー電の報道

●英國は未だトルコとの友好關係を持續して居り、財政的援助も與へてやると云つてゐる

●アルバニヤは今回伊太利の羈絆を脱し、ギリシヤが後援の下に共和國を樹て、獨立するであらうと謂はれてる

●ギリシヤと戰つてるイタリー軍はアルバニヤ方面戰線から全部撤退したと云ふ話だが伊軍は思つたよりヘボだ

●獨逸政府スポークスマンはアラビヤ語を以て「獨伊はアラビヤに好意を持つて居り、決して侵略しない、英の保護から離れ、一刻も早く獨立を祈る」と放送した

上海爲替

上海五日 爲替寄付氣配 對英三片六十四の五十一、對米五弗三十二の二十一、軍票六十一円二の一賣り、六十一円四の三買ひ

科學の驚異

長距離砲の話【二】

三十二里飛ぶパリ砲

最高度四十粁

といふわけでこの大砲のことをもう少しくはしく述べて見る。百二十八キロの遠方へ彈を屆かせるためには大砲は相當上の方へ向けて擊たなければならぬ。彈は一番高く上つた時地上四十キロ、十里に達する、富士の標高三七七八メートルの十倍以上。この高さになると空氣の抵抗が非常に小さくなるので、彈が遠くへ飛ぶのに大變都合がよい。この百二十八キロ彈は三分間で飛ぶ。特急"つばめ"は沼津まで一時間と五十六分かゝる。しかし砲口を飛出した時の彈丸の速さは百二十八キロを二分間。百八十秒で割つた秒速ではなく、これよりはるかに速く、秒速千七百メートルであつた。いふまでもなく彈は直線でなく上の方へ弧を描いて飛ぶのだから、その距離は百二十八キロよりはるかに長い。

砲身の長さ三十四米

飛んで行く彈丸は口徑すなはち直徑が二十一センチ、長さ九十センチ、重さ二百ポンド、メートル法でいふと百二十キログラム、三十二貫目。これを擊ち出す砲身の長さは三十四メートル。百尺を越えること十尺であるから、眞直ぐに立てると丸ビルより高い。百二十キロの彈丸を擊つために火藥が百八十キロといふから彈より五割方重い。これだけの火藥で彈を擊ち出すと、砲身の中が僅ではあるが擴がるので、次の彈丸は僅ばかり直徑の大きいのを使ふ。

あばれ大名（據上映畫化）

久我荘多郎 作
倉藤秀彌 畫

（二百六十九）

（ざくろ船）

盛衰一路（三ノ一）

敏捷な若者であり、讃岐士にも雨崎屋の手の者にも顏を見知られてゐないところから、彌吉が探索の役を買うて讃岐へ發つと、伊太八が德城下の見物に出かけた。

そして、歸つて來るなり、伊太八は、隱し切れない喜色を、顏いつぱいにみなぎらして、

「大三郎さま。城下の樣子がすこし違つてまゐつてをります」「違ふとは?」

と、大三郎はじめ、一同は膝をすゝめた。

「……どう違つてゐる?」

「はイ、橫溝半馬、大場典由など讃岐からまゐつてゐた者たちは、今朝倉皇と城下を引揚げて行つたらしうございます」

「――ほウ」

「そればかりではございませぬ。大三郎さまはじめ、皆樣へ向けてゐた當地の役人たちの探索の手も、にはかにゆるみました」

「――?」

意外のことばを聞くものと一同は、顏を見合つた。するとその言葉を繼いで伊太八

「だから――もう阿波領のどこへお出かけなされても、大三郎さまお心安うございまするぞ。お尋ね人ではなくなりました」「それはまた、どうした譯だらう?」

と浩齋が、まづ口を挾んだ

「さう聞くことは、何より、よろこばしい話には違ひないが、不意にさうなつては、薄氣味惡いことだ。これは、善意に解していゝものか、それとも、雨崎屋たちが、何か別な手段を思ひ付いたのではなからうか」

「さあ――」

どうだらうか? と、誰も考へ深い目付になるのである。

實際、浩齋がいふまでもなく、木の葉のそよぎにさへ、心せねばならない現在なのだから、伊太八の報告が事實とすれば、これは欣ばしい限りである。が、しかし、有り得べきことゝは思へないのだ。

誰の胸にも、

（それは、雨崎屋の策謀ではないか?）

と、混迷たる疑惑がかざすのだつた。

グレニントがそれをいつた

「油斷は、出來ません。トクベエといふ男は、昔から腹黑い人間でしたから――きつと何か考へてゐるのだと思ひます」「うむ」

頷いて、大三郎は、

「その通りかも知れぬ。こゝで心を許して、虛に乘ぜられては何も彼も水泡となる。彌吉さんが讃岐から歸つて來るまで、各自自重しよう」

「……」

一同は、頷き合つた。

その次の日の朝――、

表へ出て、少年らしい邪氣のなさで、蟲探りに夢中になつてゐた萬太郎が、

「ア、彌吉さんが歸つて來た」

と、元氣な若者の姿を見付けた。

萬太郎は、大事さうに抱へてゐた虫籠を、道端へ投げ捨てると、

「大三郎さま、姉さアん、お師匠さまッ」

と、一氣にこれだけ呼んで

「彌吉さんが――彌吉さんが歸つて來ましたよウ!」

足音を立てゝ、座敷へ驅上つた。

ちようと緣端へ出て、三郎鳩に餌を與へてゐた浩齋が、

「なんぢや、騷々しい……」

叱りつけはしたが、彌吉の名を聞いて、いそがしく腰を延ばした。

政府部内に反對の聲！

行惱む經濟新體制樹立問題

微溫的な閣僚懇談會の決定案

【東京五日同盟】東朝所報、經濟新體制の樹立に關する政府の方針については、去る一日開かれた經濟閣僚懇談會に於て、企劃院案を修正して一應の成案を得るに至つたが、同案に對しては政府內に於ても有力閣僚の反對がある、即ち同有力閣僚等も經濟新體制を樹立する爲に經濟界に必要以上の摩擦や不安を惹起してはならぬ事、革新は段階的であつて已むを得ぬ事等の點を充分認めてゐる、けれども經濟閣僚懇談會の決定案は餘りにも微溫的であり、これでは新體制を樹立する究極の目標が失はれてゐる憾がある故に、政府案は

一、經濟新體制の最終目標を明示すべき事

一、官民協力に依る計畫經濟の遂行と云ふ現內閣の基本國策の觀念を盛つたものであるべき事

一、更にこれが實行精神として指導者原理を徹底せしむべき事

の三點を包含すべしとの積極的な修正意見を持してゐる、經濟閣僚懇談會案に對しては、右と全く別個の立場から財界方面に於ても、同案をめぐつて巨頭連の動きがある、國防國家の建設を第一義とする强硬閣僚の步調は完全に一致してるので、經濟閣僚懇談會案がその儘政府案となる事は到底不可能と見られ、相當の修正强化は不可避の形勢で今後の成り行きは頗る注目すべきものがある

フライは洋天 サイダーは噴食水

外語の日本語適譯

【東京發】わが國の日常生活にとり入れられてゐる外國語の適譯を東日社文化部で募集してゐるが、國粹論者に多大の反響を呼んで連日應募の投書が山積してゐる、そのうち目ぼしいものを拾ふと

洋天（フライ）電聞機、受音器（ラヂオ）噴食水（サイダー）擲球（ラグビー）芝球（ゴルフ）ひつかけ（ホック）黑膏（アスファルト）皆入袋（ハンドバック）肩畫（カタト）點烟具（ライター）跳鼠（カンガルー）等

日泰定期航空路

新たに一線を追加

西貢經由バンコックへ

【東京四日同盟】大日本航空では、本年六月開設した日泰定期航空路「東京、ハノイ、バンコック間」とは別に、今回更にハノイより分岐し、西貢を經てバンコックに至る每週一往復の新空路を開拓、南方に輝かしい鳳翼を伸ばす事となつた

全國製糸工場

繰短の不履行示す

【東京四日同盟】農林省發表に依る十月一日現在の全國製糸工場數は、營業製糸千三百六十二工場、產組製糸百七十七工場、合計千五百三十九工場で、七月に比し四十七工場を減じ、一方運轉狀況は設備釜廿二萬三百十九釜に對して運轉釜は十七萬六百八十二釜と七割七の五厘の運轉率である、去る八月十五日以來實續一割五分の繰短が行はれてゐる筈であるが、十月中旬に於ける運轉釜數は七月のそれに對比しても僅に九分方の減少に止つてをり、繰短の不履行を如實に物語つてゐる

濟南附近に蠢動

共產匪に鐵槌下る

【濟南四日同盟】去る十一月廿日以來共產匪が小濟にも溜川、博山兩炭鑛の襲擊を企圖して集結中なるを探知した我が各部隊は、廿四日一齊に行動を起し、神速果敢敵の本據を襲擊し、その企圖を完全に葬り去つた

英國經濟使節團

ブエノス市で活躍

【ブエノスアイレス四日發】英國經濟使節團一行は、本日英、亞通商問題に關し、亞國商務省當局と會談、種々意見の交換を遂げた

【ブエノスアイレス四日】當市駐在北米大使は今日英國使節團々長ウエリントン侯爵夫妻を招宴した、席上同大使はウエリントン侯爵並に挨拶を述べたが、此に對し侯爵は厚く感謝の辭を述べる處あつた

社告

謹啓　時下益々御淸祥之段奉賀候　陳者弊社各外交員を左記の地に差向け居り候間宜敷く御配慮の程御願申上候

〇聖市市內　菊地鐵彌

〇マリリア、ペラクルース　ウヤフア、ガリヤ　フエルナンデア方面　本多彬　本多聖

〇ペンナポリス　ピリグヰ方面　田代重守

〇リンス附近　中村滿志

〇アララクアラ線　トラデンセ線方面　サンパウロゴヤス線　棟形昇

〇S.P.R線　聖市近郊方面　柳沼爲四郎

〇アラサツーバ　グワラペス方面　川崎辰男

〇ブ・ブルデンテ　ア・マツシヤード附近　茂木源太郎

〇サンタクルス　リオパルド方面　高橋朔太郎

伯剌西爾時報社

假協定に到達

上海滬西越海路警備權問題

【上海四日同盟】上海滬西、越界路警備權問題は、日伊領事館の斡旋で、豫て市政府と工部局との間に折衝中、四日假協定に到達した旨、工部局から發表された

海鷲の猛威

詔關を潰滅

【〇〇基地四日同盟】連日詔關ルート上を猛爆しつゝある我が南支海鷲は、四日その據點詔關を襲ひ、停車場、倉庫トラック群を猛爆、潰滅せしめた

六ケ村を合せ

日田市（大分縣）の誕生

【東京五日同盟】內務省では、來る十一月より大分縣日田郡日田町に附近六ケ村を合併、市制を施く旨五日告示した、これで全國の市數は百七十七となる

超短波

內閣參議會

內閣參議會は五日午後一時三十分から首相官邸に於て開催經濟新體制について關係閣僚の補足說明あり午後四時散會した

奉祝驛傳競走

二千六百年奉祝宮崎—橿原間一千キロ驛傳競走は去る廿七日午前八時半全國八地區の代表選手により、宮崎神宮より一齊にスタートを切つたが、愈々十日目の明六日最後の決勝點橿原神宮前に到着する事になつた、九日目（五日）までの記錄次の如し

一、朝鮮、臺灣軍五十二時間四十二分三十二秒

二、關東軍五十二時間四十九分

三、九州軍五十三時間〇二分十九秒

以下滿洲、東北、四國、中國の順

松宮大使

門司へ着く

【門司五日同盟】日佛印經濟使節松宮順大使は、日佛印交涉が東京に移される事になつた五日朝、基隆より關門入港の郵船香取丸で歸朝した

伯國と兄弟の間柄

羊毛の國ウルグワヰ

對伯通商不平衡に惱む

ウルグワヰは伯國の南大河州と鄰合せた南米大陸東側の一國家である、面積は十八萬七千平方粁、人口は二百二十萬を算する、その美くしき首都モンテビデオ市の人口は七十二萬人である

ウルグワヰの歷史を見るに、伯國とは緊密の關係にある、昔時のブラジル人は、ウルグワヰの國風に影響されること大であつた

卓絶したこの國の國民は伯國人と兄弟の間柄にあり、同國の社會の樞を形成する傳統的舊家には伯國を祖國とするものが多い、それ故に彼等は、自國の進步發展は伯國の一部分が發達した如く慶ぶのである

傳統的伯國ーウルグワヰ兩國の親善關係は、今日全米大陸の鞏固たる相互理解と、友好の好例として我々を安堵せしめるものがある、この例は、一八二七年八月廿七日ブラジル帝國の舊行政區劃シスプラチーナ地方の獨立を、我が伯國が條約に依り承認した事に依りよく實證されてゐる

ウルグワヰの主要輸出品は、羊毛、肉、肉エキス、皮革、穀類、小麥及び麥粉等である

その羊毛は、世界的良質を以て知られてゐるが、伯國への販路は擴大されてゐない、我が南大河州も又この種羊毛を產する

伯國の著名產物カフェー、鮮果及びその罐詰、多種類の製造品等は、兩國の通商交易を決定的のものにしてゐる、織物輸出を主とする對ウルグワヰ輸出は、聖州の製造業者の好個の研究目的であらねばならない、國外に內國製品の新市場を開拓する事は、有利な利益を舉げ得ると云ふ以外に、之に優る愛國的行爲はあるまい、以下は聖市駐在ウルグワヰ副領事フリオ・テッレチア氏に兩國の通商關係を訊く

問　兩國の通商關係は如何？

答　通商バランスは現在ウルグワヰに不利である、聖州との通商交易も一九四〇年度は驚くべき不均衡の一語に終るであらう、その輸出額の八二・六%を占める聖州向け主要輸出品小麥粉は降雨に因る耕作不能で、その輸出は今日まで皆無の狀態にあり、アルゼンチンより輸入するの逆現象を生じてゐる

問　この通商不均衡は如何にして正常に復し得るだらうか

答　聖州側が、ウルグワヰより自由に輸入出來得る羊毛の輸入手續きを簡單にすることである、粗羊毛の輸入に伯國税關は、キロ當り一ミル六百レースの重い税を課してゐる、これは羊毛價の廿五%を占め、伯國側の輸入を不可能ならしめてゐる、聖州側で羊毛を、ウルグワヰ側で聖州の製造品を輸出し合ふたなら必ずや兩國を利する事と思ふ

ウルグワヰ側から云へば、聖州の工業製品の交易を容易にし、數衍の要ある汎アメリカ政策實行の爲には相互に補償主義をとらねばならぬと思ふ、例へば羊毛は聖州に產せず、國內の他地方から輸入せんとしても、ウルグワヰ產のものに比し品質劣惡で高價である、斯くてはウルグワヰ產の羊毛を輸入する先進工業國家群の製品に比し、聖州製品は劣惡となり、その工業的地位を自ら下げる結果となるは疑ひない

最後に同氏は

ウルグワヰの大商店主は、ヨーロッパへ買付に、又商況視察に出向くが、彼等は近くの聖州まで來れば、遠く歐洲まで出掛ける必要のない事を覺るであらう事を確信する、伯國、アルゼンチンの通商協定は、兩國の爲め利益があらうが、今一步進めてウルグワヰまで伸ばして貰ひ度いものだ、我々の傳統的親善關係よりする汎アメリカ主義からしても、斯くあらねばならぬと鬪ふ

と結んだ

石本少將の遺骸歸京

去る廿九日空中事故の爲め遭難した石本少將以下六人の遺骸は、五日午後三時二十五分帝都に無言の歸京をした、葬儀は秋山少將葬儀委員長となり六日青山で合同葬が執行される

安南人の暴動

泰國ー佛印兩國々境で戰鬪開始以來、佛印各地に安南人の暴動が起り、總督府ではこれが鎭壓に手を燒いてゐる

司法會議

大審院長、檢事總長、控訴院長その他關係者參集、司法會議を開いた

Dr. Alarico Franco Caiuby
ADVOGADO E
Tsuguo Kishimoto
TRADUTOR PUBLICO
Escritorio: R. José Bonifacio, 233
3.o and. salas 310/312 - Tel. 2-1137
C. P. 1124 São Paulo

法律一般
翻譯
公證飜譯人　岸本次男
顧問　アラリコ・フランコ・カユビー
岸本 アラリコ 法律事務所
事務所　聖市ジョセ・ボニファシオ街二三三番　三階三一〇ー三一二號室
郵函一一二四　電話二ー一一三七

胃腸に
エビオス

A PREFERIDA
NATAL - FEDERAL
5MIL Contos
ローダ・ダ・ソルテで
本月31日 又々30コントスの家屋懸賞無料提供
ナタール
聯邦ロテリヤ
五千コントス
チレイタ街二番

蕎麥（そば）を植えなさい

そばは此處では何んな所にでも出來ます。此の粉の利用は母國では余りにも知れ過ぎてをります。然るに此の粉は豚に實は豚の肥育に適する事、乳牛の飼料に殊に妙で牛馬の飼料として大いに賞用す可きものです。

當國ではパラナ州の南部地方では盛んに什民は此のそば粉とパン粉を混じてパンを作ります。小麥粉の高い今日大いに蕎麥を蒔いてウドンの代りに經濟なそばを賞用するを御奬めする。

種子　一〇瓩　一、五〇〇

時報商事部

YAMASHITA LINE
山下汽船株式會社
往航　極東—紐育—南米—定期航路
復航　南米—ニューオルレアンス—羅府—極東
太平洋岸、フイリピン行荷物輸送引受申候
使用船壹萬噸型新造優秀貨物船

山里丸　往 一月十八日頃　復 二月四日頃
山月丸　復 十二月九日頃
山彥丸
山浦丸　往 十二月十日頃　復 十二月廿八日頃
山風丸
南滿丸　往 二月二十二日頃

詳細は左記弊社代理店にお問合せ下され度候
（貨物船に付き旅客運送は勝手乍ら御斷り申上候）

サントス市　JOHNSON LINE AGENCIES
Praça da Republica 22　Telephone 4694 e 5107　Santos
聖市　L. FIGUEIREDO & CIA.
Rua Libero Badaró, 92 - Phone 2-7125 - S. Paulo

CASA
HAMAOKA
Rua Carlos Garcia, 103
C. Postal, 993. Tel. 2-7581
S. Paulo

新種子入荷！
玉葱
カナリヤ種
肥料
種子
農具
濱岡商店
聖市
新メルカード横側

Dierberger Agro-Comercial Ltda.
Rua Libero Badaro, 497-501
Caixa Postal, no. 458 São Paulo

黃色セボーラ・カナリア種
多量入荷

セボーラ植付の季節でございます保證付の黃色カナリア種が多量入荷いたしました、品切にならぬ内にどうぞ御註文下さい、お値段は特別勉强いたします、御註文は直接左記へ

聖市　チエルベルゲル商會
聖市リベロ・バダロ街四九九・五〇一
郵函　聖市　四五八

家庭でたやすく出來るカマダ特製の
サルバドール　修繕用　ゴムノリ及皮
大瓶　五釬
小瓶　三釬
皮　壹釬
輕便勞働靴製造工場特製品
リンス市　カマダ商店　郵函二〇三
各地商店ニアリ

品質風味のよい
番茶
二百瓦一包　一、五〇〇
送料加算下さい
時報商事部

Cia. Internacional de Capitalização
Rua São Bento 490 - Phone 2-7614　São Paulo

CIC

十壹月分抽籤報告

(1) N J P
(2) F C I
(3) R V L
(4) H V D
(5) W E N
(6) R Y P
(7) Y G S
(8) L U O

今回の償還抽籤の幸運は右の債券所持人に當籤致しました

インテルナシヨナル
國際貯蓄銀行
日本人部

R. Monteiro & Cia
CASA MATRIZ E ESCRITORIO
Rua 25 de Março, 533
Caixa Postal, 1646 - Telephone, 2-4388 - São Paulo

Casas Filiais:
Rua José Bonifacio, 43
Esq. Bocayuva
Telephone 2-5510
Rua 15 de Novembro, 12-18
Telephone 2-1781
Av. Rangel Pestana, 1475
Telephone 2-9837

Casa Filiais:
Rua Boa Vista, 199
Telephone 2-3688
Santos
Rua Gen. Camara, 79
Telephone 5657
Rio de Janeiro
Rua Uruguayana, 106
Telephone 23-5067

IMPERIAL CASIMIRA
MARCA REGISTRADA

◆弊店は伯國最大の反物店で內外優秀のカジミーラを豊富に仕入れて居ります
◆尙歐洲よりブリン、麻、パームビーチ、トロピカル等本年夏向きとして種々多量に仕入れました
◆アズールマリニヨのタルジア地一米十八ミル以上
◆弊店は國產優秀カジミーライムペリアルの總代理店
◆地方より御出聖の折は是非御來店の程を
◆尙地方へは見本をお送り致します

BANCO AMERICA DO SUL LTDA.
CAPITAL
1.000:000$

支店
1 アラサツーバ
2 マリリア
3 バストス
4 チエテ
5 オウリニョス
6 プロミッソン
7 プブルデンテ
8 バウルー
9 パラグアスー
10 ランシャリヤ
11 ポンペイア
12 リベロンプレート
13 リンス
14 ロンドリーナ
15 リオプレート（明年二月）

南米銀行
お引立を希ひます

特種定期
積立・据置
利子毎月拂
是非御利用を

一般預金
定期　年六分
小口當座　四分
普通〃　二分

送金
國內直扱
郷里取次

其他
貸附
手形割引
手形取立

本店 サンパウロ＝PRAÇA DA SÉ, 393. CAIXA POSTAL 555.

來季ブラジル棉に對する
日本の買付量打診

歐洲戰亂の長期化に伴なひ海外各地に於ける綿布類の缺乏はいよ〳〵顯著となり、殊に從來英國にその供給を仰いでゐた世界各市場においてはその極端な輸入制限と英國よりの供給制限によつて在荷の著しい減少を來してゐるため、これを日本綿布によつて代替せんとする機運が特に濃化してゐることは三國同盟後の日本綿布輸出情勢において極めて注目すべきことである

これに對し現在日本では國際關係の急轉回にともなふ決濟不安、あるひは船腹難などによつて賣控への自重的態度を採つてゐるが、これらの傾向に對し海外各市場の買氣はます〳〵昂まり、殊に最近では取引條件につき日本側の要求に應じてもなほ買急ぎの態度に出るといふ現象である

右の事例としては例へば北歐諸國のドルによる前金電送、あるひは日本の要望に從ひ各市場のポンドのドル決濟への切換、前金拂ひなどがある

前記事實と考へると、たとへ戰爭が豫想以上早やく終結するとしても、各國の戰後經濟建直しに相當の日時を要することは明らかであり、その間に利して船腹難に惱む日本もさきには村田遞相以下日本海運界首腦部によつて結成を見た海事振興會（假稱）の建前とする世界海運制覇へ萬難を排して推進するならば、來季伯棉に對する日本の買付けは相當量に達するであらう事は想像出來る

卸値は下つたが 小賣は矢張り ＝二ミル三百＝

牛肉

一キロ二ミル三百レースだつた牛肉が、一昨日から百レース値下げしたと云ふので、聖市のオカミさん連、キロ二ミル二百の肉が喰へると云ふので肉屋に押掛けたが、矢張り二ミル三百で賣つてるので、「これはどうした事か」と早速抗議に及ンだが、肉屋の言ひ分では『今まで高い牛肉を損をしてまで賣つてゐたのだから卸屋が値下げしたからつて、小賣値は急には下げられん』と云つてゐる

大橋夫妻の繪畫展に バ執政官夫妻臨場

既報―プレヂオ・イターリに於て開場中（午後四時―九時）の大橋夫妻の繪畫展に昨日

午後五時半聖州執政官アデマール・デ・バーロス氏及びエレナ夫人は、聖州警察署長代理、大佐、中佐等を從へて特別臨場熱心に參觀された、尙同夫妻畫伯の作品について各葡字新聞、その他手紙等で批評が机上に山積されてゐるが何れも評して「一歩々々準序を踏んで研究、苦心の跡が歴然と伺はれる、今まで上ッ調子の薄ッペラの繪だけ見てゐるだけに、實に落付いた賴もしいものである、少くとも今までの展覽會で見たものより數段の進歩だ、今後時折こんな展覽會を見ることが出來れば、ひとりその道のものだけに限らず、聖市ッ兒のためにも喜ぶべきである」と絶讃されて困る、尙昨日開場當日既に七點が賣却された（寫眞は來臨の執政官夫人）

電波日本の躍進
毎日十五送信、卅四時間
海外放送の大々的擴充

事變下にも拘らず日本放送協會では海外放送の大々的擴充を計畫し準備中の所、此の程新鋭五十キロの純國産送信機が更に一臺を加へ茲に堂々の送信陣成り、愈々明春元旦を期して毎日十五送信、十二方向、三十四時間に亘つて放送する事になつた、即ちこれに使用される國語は日本語をはじめ、獨逸、伊太利、英語、フランス、スペイン、ポルトガル、オランダ、アラビア、ビルマ、ヒンヅー、タイ、マレイ、支那標準語、廣東、福建の十六ケ國語に上り主として二十キロ短波送信に波長、百五十キロ中波送信機も動員して或方向へは三波長、四波長を以つて放送することになつた。我國の海外放送は今から五年前の昭和十年六月北米西部向に開始され、その後累次の擴充を斷行、支那事變勃發するやこの國策放送の使命[illegible]を加へ、その威力が各地で立證されたので昭和十四年七月及び昭和十五年六月と更に擴充の一途を辿り、歐洲大戰勃發するや世界放送言論戰物凄くこれに呼應してわが海外放送も今日の躍進を見るに至つたものである

南米向放送時間
午前六時―七時（伯國時間）
午後八時―九時半
JZI　三一米四六
JZJ　二五米四二

雜記帖

◇リオ來電に依ると去る四日リオ港の倉庫から失火北米から着荷したナタール向きのセルロイド玩具が燒失した

◇七・七禁令の足止めを喰つた豪奢贅澤織物が、一たび米國の流行界に流れ出すや、秋から冬にかけての流行に新生面を拓き俄然大歡迎を受け、一轉國策織物と化し、世界流行の寵兒となつて新らしい第一歩を踏み出した

◇ジャン・ボロトラ佛体育長官は、佛國のスポーツからすべての職業スポーツを驅逐する第一手段として、先づ外國職業選手の參加を禁ずる旨命令を發した

◇若返り法で有名なセルゲイ・ヴォロノフ博士（七十五歲）は佛伊國境の海岸マントン市に住んでゐたが、戰火の巷では落ついて研究も出來ないので、交戰當時イタリヤ兵に救はれた研究用の猿百匹をつれ美しいゲルテイ夫人（二十五才）とともに北米へ移つた

◇セリーニヤに在住する沖繩縣人カマト某（卅六才）は、四日早朝ジュキア線ビグア驛とセードロ驛の間で列車に觸れ即死した

◇四日から講習を開始した"母の會"の日本刺繡講習會は、月、水、金、土の隔日午後一時から四時半までの三時間半行はれるが、暑中休暇を利用されるといふので一般に喜ばれてゐる、尙期間は今月一ぱいだと

來春早々もんて丸で 異色移住者 五十人 着伯

あるぜんちな丸の代船もんてびでお丸は來年一月八日サントスに入港するが同船には大阪から五十人のブラジル移住者が來ることになつてゐる、これは從來の移住者と大いに趣を異にしてゐるもので、母國非常時下に於ける中小商工業者の百八十度轉業問題で新しく土に生きようと固い覺悟のホゾを決めた人達であるといふ、從來農業移民ではさつぱり振はなかつた大阪人で最近壯圖を思ひ立つ人々が激増して來た、これらは不生産的職業から生産的職業に轉回して所謂農業者としてブラジル其の他近く滿洲、支那方面にも活躍するものである

訃電
石射大使の嚴父逝去

きのふ聖市總領事館へ日本から現駐伯石射大使の嚴父逝去さるとの入電があつたので、總領事館では取敢ず弔電を發した

奥地歌行脚の敏子孃 先づリンスで第一聲

既報―長谷川敏子孃のリンス公演は異常な人氣を呼んで去る三日午後八時からリンス青年會館で蓋を開けた、開演前すでに豫定席は內外人に依つて埋められ　定刻作田青年會長の挨拶で幕が開き、円熟した鮮かな日伯伊三ケ國の歌曲、美聲は曲毎に聽衆の絶讃を浴び好樂家を陶醉させた、最後にファンの熱望に答へオペラお蝶夫人を歌ひ、音樂に惠まれない奥地の內外人を喜ばせ、日伯親善にも偉大な効果をおさめた（寫眞前列正面白服が敏子孃）

座談會に、見學に 多忙な訪日選手

去る十月十二日あるぜんちな丸で横濱に上陸した我等の陸上競技代表島田、峰、石田、小田、玉置、松原の六選手は井上監督に引率され、十七日靖國神社臨時大祭に參拜後神宮大會に出場多大の成果をおさめ、在伯同胞の爲に万丈の氣を吐いたが、爾來座談會に東京見物に忙がしい日を過してゐるが、一行今月の滯日プロは次の通りである

六日（金）交歡競技會並に競技指導法受講（南部、織田村社、矢田の諸氏）
七日（土）大阪發、神戸出帆の黑龍丸で大連へ（瀨戸內海見學）
八日（日）門司着發
十日（火）大連着、市內見物
十一日（水）旅順へ戰跡見學
十二日（木）新京着、見物
十三日（金）新京發ハルピン着
十四日（土）早朝發、瑞穗移住地へ見學、移住地一泊
十五日（日）移住者と懇談、退去ハルピン着、夜行で奉天へ
十六日（月）奉天着、重工業地帶見學、奉天泊
十七日（火）撫順へ炭坑及オイルシエール工場その他新興重工業地帶見學、夜行にて京城へ
十八日（水）京城着、見物
十九日（木）朝鮮神宮參拜、京城發關釜連絡船で內地へ
二十日（金）下關着、福岡へ
二十一日（土）鹿兒島着見學西鄉隆治君の案內で南州翁展墓、鹿兒島泊
廿二日（日）霧島神宮へ、霧島登山、高千穗の古蹟見學宮崎神社參拜
廿三日（月）第三拓植訓練所訪問、別府泊
廿四日（火）見學一旦解散、昭和十六年一月七日まで各自歸京
一月八日（水）神戸集合、各團體交歡會、交歡競技に出席、日本毛織、川崎重工業寶塚觀劇した後十五日頃神戸出帆歸伯の豫定

ブラジル移住者に福音 渡航制限が緩和

海外移住組合聯合會からの報によるとブラジルへの渡航制限が十八才から五十才までの夫婦と十四才以上の同伴者三人が一組となつてゐるのが、こんど同伴者の年齡が十二才以上に改められ、また夫婦は子女を伴ふことが出來なかつたものを出來ることに改められ移住者に福音をもたらした

棉の相場

サンパウロ棉花取引所建値
十二月四日　單位　十五キロ

	買値	賣値
四級	四三、五〇〇	四四、〇〇〇
五級	四三、五〇〇	四四、五〇〇
六級	四三、五〇〇	四四、五〇〇

二千六百年奉祝の
聖市天狗會 淨瑠璃 大會
出演者は折紙附の大家揃ひ

一九四〇年の棹尾を飾る聖市天狗會の紀元二千六百年奉祝淨瑠璃大會は來る十四日午後七時半からトキワホテル廣間で盛大に擧行される事になつた、何せ出演者は何れもその道の大家と折紙附のもので、御馳走して聽かせるそんじよそこらの旦那藝とはダンチで既に數回公開して絶讃を博した喉自慢の人々である、（入場無料）當夜の演しものは

一、日吉丸稚櫻三段目　小牧山城中之段　菊水　三味線　扇玉
二、戀娘昔八丈　鈴ケ森の段　泉昇
三、攝州合邦ケ辻　合邦內の段（ロ）　龍玉
四、攝州合邦ケ辻　合邦內の段（奥）　白頭
五、增補朝顏日記　宿屋より大井川まで　菅光
六、日吉丸稚櫻三段目　小牧山城中之奥　靜司

―千秋樂―

と云つた豪華版である

シュシビンニョ	ノミナル	
△ミリョ	六〇キロ	
アマレリニョ	三〇、七	三〇、八
アマレロ	三〇	三〇、二
アマレロン	三〇	三〇、二
△アロースアグリア		
アマレロン		
エスペシアール	七一	七五
スペリオール	六五	六六
ボン	六〇	六一
ブランコ		
エスペシアール	六四	六五
スペリオール	五六	五八
ボン	五〇	五二
レグラール	ノミナル	
カテテ		
△エスペシアール	五二	五三
スペリオール	五〇	五一
ボン	ノミナル	
△メイオ	三三	三四
△キレーラ	三五	三七
◎セボーラ　リオグランデ		
一五キロ	一六五	一九五
◎マモナ　キロ	六二〇	六三〇
◎バニヤ　大南河		
二〇キロ	二、三〇	二、三二
◎豚（オザリオ相場）		
◎ゴールド	三〇、五	
◎マーグロ	二七、五	

蔬菜市場

十二月五日

コチア産組調	安値	高値
トマテエスペシアル	一三	一七
プリメーロ	一〇	一二
セグンド	八	九
レボーリオ	二	七
ピメントン	四	六
バージ	三	五
エルビーリア	五	一〇
ボプリンニョ	五	[illegible]
ベビーノ	八	一三
人參	八〇〇……	……
バタタ	九	一三
コーベフロール	八	一〇
ナス	六	一〇
玉子	二、三〇〇	二、八〇〇

お斷り

埋れ行く拓人の足跡は本日休載

重要商品市況

十二月四日

	買値	賣値
◎バタタ	六〇キロ	
アマレーラエスペシアール	六四、	六六、
◎スペリオール	五四	五六
◎マンヂョカ粉五〇	三三	三五
アルファファ		
キロ	四六〇	四八〇
◎小麥粉一級	四九	五〇
◎スペリオール	五四	五六
◎マンヂョカ粉五〇	三三	三五
アルプアファ		
ロキ	四六〇	四八〇
◎小麥粉一級	四九	五〇
◎砂糖	以下六〇キロ入	
極上	七一、	七二
上等	六八、	六九
◎フェジョン	六〇キロ	
△新ムラチンニョ		
スペリオール	五九	六〇
エスペシヤル	六三	六四
ボン	ノミナル	
レグラール	ノミナル	
△コーレス	六〇キロ	
ブ・グラード	ノミナル	
ロシンニョ	ノミナル	

タナアミ理髮店
は日本人理髮店中
最古の店
最新の技術
聖市コンセレーロ・フルタード街五〇 萬平旅館筋向ひ

横山守
伊藤三郎兩氏へ告ぐ
貴殿達の將來の名譽及び成功の爲め小生方迄來て話しを附けなさい
ド・アメリヤ町アグードス驛　森田穰主

美術製本
書籍修理、貴重文献、出張製本、レコード用アルバム、紙上類一切
トーマス・デ・リマ街四二四
裝美堂　大塚

急募
職人數名　至急雇ひ度し
チノツラリーア
キミカ・A・B・C
聖市ヴェルゲイロ街　二、六八〇

高瀬德太郎君
日伯公論社
編輯調査員
編輯の都合あり、至急歸社を待つ

移轉開業御案內
弊店儀
本年八月迄マリリア市サンルイス街に於て皆樣の果物店として御贔屓に預り居りました處今般聖市に移轉致し一層新鮮なる高級果物の店を左記の場所に於て開店致しました故何卒御出聖の際は是非御立寄の上御引立の程偏に願ひ申上げます
各位
山口果物店
聖市ラルゴ・ダ・セ一八八
（シネマ館向側）

世を擧げて宣傳の秋、廣告なら時報社へ

南米隨一として知られたる
本流家傳　名灸
磯谷鍼灸本院
マリリア市　郵函368　パエスレーメ街三三一番

CHÁ RIBEIRA PRETO

粂田齒科
ピネイロス、カルデアルアルコヴェルデ二六五一番
午前八時より午後八時まで

バール
レストランテ

AO PINGUIM
Av. S. João, 128 - R. Anhangabaú 36
酒はピングヰンへ
アルモッソ・コメルシヤール　三$
オーケストラに夜七時から一時迄　日曜・休日は晝間も
電話 4-5107　電話 4-6[illegible]6

求人
地方外交員　壹名
壯年の家族者にして市內に身元保證人を要す
希望者は自筆履歷書持參來談ありたし
伯剌西爾時報社

急な場合の爲めゼヒ各御家庭に
配置袋一箇宛御備へ下さい
商標
越中富山　御藥
本舗　富山市堀端町
支店布哇ホノルル市郵函1299
ブラジル支店
長森聖榮堂
C. POSTAL 4128 - S. PAULO

KANAKAO S/A
肥料、農具
藥品、ニカワ
カナカオ化學工業株式會社
サンパウロ市テオドロ・サンパイオ街二七七六番
郵函　二一八六
電話　八・二五八七
支店　イタプラ・デ・ミランダ街一七
電話　二・六六三七

尋人廣告

左記ノ者等ノ現住所承知致度ニ付本人又ハ御存知ノ向ハ至急當館迄御一報相煩度

記

長野縣南安曇郡穗高町四二五六番地
推定住所　ブタンタン區ジャグアレー耕地　赤羽安勝（所在調査願）
同　ますみ
大阪府北河內郡守口町字土居六九二番　貴志米楠（同右）
秋田市牛島町字康塚九番地
昭和九年九月廿二日サントス港着　田口ミエ子（同右）
沖繩縣國頭郡羽地村字振慶名　花城清長（同右）
秋田縣南秋田郡豊川村　宮田金一郎（同右）
福岡縣人　横溝圓太（同右）
廣島市東新開町　下村節弁（同右）

昭和十五年十一月二十九日
在サンパウロ
帝國總領事館

身心爽快になり一夜が明ける思ひ
しばらく有名な婦人藥中將湯を服用してゐると、月經不順、こしけ、其他左に記載の婦人諸病が、だん〳〵除き去られて鬱ぎ勝ちな氣分も晴れ、人にはめられる健康美は輝きます。效果優秀で副作用のない點、誇るべき中將湯の特徴です。

―主効―
足腰冷込　逆上頭痛
めまひ　月經不順
下腹疼痛　ヒステリー
神經衰弱　子宮病
こしけ　肩凝しびれ
息切れ感冒　産前産後

各地藥店にあり
本舗　株式會社　津村順天堂　東京　日本橋
中將湯
總代理店　サンパウロ州マリリア市　瀨木商會

Redação - Rua Fagundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal, H

Director M. Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno.... 60$000
" Semestre.... 30$000
Numero de dia .... 300 reis

Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIII S. PAULO — SEXTA FEIRA 6 de DEZEMBRO de 1940 DIARIO No2351

O Exercito Brasileiro

No dia 7 de Setembro estava no Rio e, emquanto as forças federais aquarteladas em São Paulo e os contigentes da Força Policial aqui organisavam um desfile, que soube, depois, ter sido magestoso, pela Avenida Central marchavam as formações do nosso Exercito e da nossa Marinha.

Si eu qualificar de assombroso o espetaculo que meus olhos viram direi um minimo da impressão que essa magnifica parada me causou. Os aplausos não cessaram um minuto, partindo de alas compátas de povo que se apinhava para ver marchar os soldados do Brasil.

E' que os esquadrões, as companhias, os regimentos se sucediam, cada qual mais garboso, mais marcial, mais bem equipado. Uma oficialidade luzida um corpo de tropa treinado, bandas militares completas, tanques, canhões, metralhadores, trem de campanha, tudo demonstrava que as forças armadas da nação alcançaram um grau de aperfeiçoamento que as emparelha com as melhores do mundo.

Mentalmente estabeleci comparações com outro Exercito que eu conhecera e com outras paradas A diferença era tão impressionante que, nesse momento, sob o sol fulvo da Guanabara nessa-manhã que era uma festa no ceu e no mar, tive a impressão de que o verdadeiro Brasil nascia nesse instante.

E' que — e a experiencia o vae mostrando — uma nação não existe realmente si não possue um exercito capaz de conserva-la. Não existe nem interiormente, nem exteriormente, porque o proprio Ihering, que era o pacifico genio do direito, não concebia a lei sem a espada.

No Brasil, para a nossa vida interior, o Exercito tem uma função transcendente e especifica é uma usina e uma escola. Usina de preparação do material humano e escola como centro de cultura das massas brasileiras. Mais que isso o Exercito é o grande unificador da consciencia nacional.

Perdidas nossas populações pela vasta estensão geografica do pais, sem quasi manter contato entre si seus grupos rarefeitos, com comunicações dificeis, escassissima instrução, claro é que tal elemento humano fosse perdendo a consciencia da patria. O quartel, pois, entra na mecanica social brasileira como um elemento redutor. O homem agreste ingressa para a caserna quasi bronco e teralmente analfabeto. Ali ele se transforma. Pela instrução, pela ginastica, pela higiene pelo civismo, opera-se o milagre de de uma alta valorização humana desse elemento que é incorporado, depois a massa etnica do pais, como uma força positiva, não apenas no sentido da sua melhoria individual, como coletiva, pois cada soldado que sáe da caserna vae ser um mestre no meio rural para o qual retorna. Bastaria essa função do Exercito para lhe assinalar um posto de mais alta beneficencia na vida nacional. No Brasil, pois, a classe armada, alem das funções que lhe são adjudicadas por todas as nações cultas, exerce mais essa. Ai está porque a parada de 7 de Setembro exaltou meu orgulho brasileiro.

De 30 a esta parte, porém, as forças armadas do pais sofrerem uma espetacular transformação. Hoje o Exercito é, por si só, uma escola industrial de primeira ordem. O valor dos seus técnicos é notavel. A utilização da nossa materia prima está inscrita no seu programa de valorização economica do que é nosso. O Arsenal de Guerra do Rio, a Fabrica de Projetis, de Andarahy, a Fabrica de Munnição de Infantia do Realengo, de Sobres e Fuzis de Itajuhi, de Pistolas e espoletas de Juiz de Fora, de Viaturas de Curitiba, e o Arsenal de Guerra General Camara do Rio Grande do Sul, atestam a quasi autarquia que em materia de armamentos já alcançou. A nova fabrica de Base Dupla de Piquete virá enriquecer esse acervo notavel de realizações.

A par disso, as manobras de Sian, do Vale do Paraiba, operações de campo em grande escala, provaram não apenas a excelencia do material humano, seu treino, como a competencia de sua culta oficialidade e a tecnica do estado-maior. Todos esses atos o povo brasileiro acompanha com o maximo interesse e orgulho. Forma-se assim uma solida consciencia de retaguarda e a nação toda se integra no exercito, por essa concepção nova de que todo o cidadão, dentro de qualquer mister, deve ser um soldado. Não é possivel separ-se o povo do exercito, porque ambos devem formar um corpo só. Não apenas cabe ao povo nutir os quadros das forças nacionais com seus elementos mais aptos, como cooperar com ele na paz ou na guerra. Em casos de necessidade, o exercito é a propria nação em armas. A planificação de todas as funções para um caso de necessidade belica deve ser não apenas preocupação daqueles a quem incumbe estridar todos os planos de defesa nacional, como espontanea vocação de cada brasileiro. Uma nação em guerra deve ser um todo agindo energicamente para um mesmo fim. A racionalização dessa função, meticulosamente estudada em tempo de paz, evitará surpresas e atropelos em caso de necessidade.

Não ha duvida que o espirito que anima o Estado Nacional muito concorreu para a formação de uma solida conciencia nacionalista. Não ha duvida tambem que as grandes figuras que hoje orientam e dirigem nossas forças armadas, a começar por essa singular personalidade de soldado que é o general Gaspar Dutra, vão colocando o exercito Nacional não apenas a altura das suas finalidades, como transformando-o num motivo de orgulho para todos os brasileiros.

O PRESIDENTE GETULIO VARGAS

Um estadista como ainda não surgira no Brasil

Conferencia pronunciada pelo sr. Marcondes Filho, em novembro de 1939, no Palácio Tiradentes, durante as celebrações culturais promovidas pelo Departamento de Imprensa e Propaganda em comemoração ao 2.° aniversário do Estado Novo.

(7)

O HOMEM QUE O TEMPO REVELOU

Foi por êsse processo inédito na nossa história, mas tão aclimado com a nossa indole, que surgiu quem foi capaz não apenas de raciocinar, de intelectualizar, mas de sentir de um modo mais amplo e mais profundo, que os outros, por origem de temperamento estadual, talvês não o saberiam nem o poderiam fa-zer, de sentir a mesma alma nacional envolvendo o Brasil como um halo, pairando acima das diversidades geograficas, dos simbolos regionais, das disparidades das populações; e que por isso não deixou mais o pais, como um hemiplégico caminhar, avançar, progredir só do lado das praias, mas reiniciou a marcha para o centro, em busca dos sertões para levar-lhes a [illegible] a seiva, o apoio, o progresso a animação que havia tempo lhes não chegavam; e que por isso pôde como um espêlho, refletir e como um diapasão repercutir as vários tonalidades e possiveis dissonâncias das aspirações do norte, do sul e do centro do Brasil, e que por isso enfrentou, com decisão inabalável e seguro descortinio, o problema civil da unidade do pais que durante quarenta anos se refugiara na formação espiritual dos militares, o que constitue uma das glórias das nossas forças armadas a serviço da brasilidade. E o enfrentou para não continuarmos a saber que estávamos no Brasil estando no norte e estávamos no Brasil estando no sul, exclusivamente porque em todos os rincões ainda existia um simbolo igual, talvês o único que nos sobejava depois da religião e da lingua: a farda; e o enfrentou para que ao lado dessa sagrado imagem do Brasil o espirito, o sentido e a fôrça [illegible] unidade de agora por diante medrassem nas almas, penetrassem a Constituição como um éter, brilhassem nos códigos como fôrça genetriz, abençoassem as familias como um pálio, e orientassem as iniciativas, protegessem o trabalho, irmanassem as regiões — como instinto, como eflúvio, como crepitação, como irradiação, como pensamento, como vontade, como fruto divino da revolução do nosso tempo.

Só então, estabelecida por osmo-se a unidade espiritual dentro da integridade intangivel de um território quatro vezes secular, fecendade para a apuração e cristalização da sua raça admiravel, o Brasil poderá pensar americanamente e caminhar resoluto para o fortalecimento do espirito continental que, atraves da fraternidade, da boa vizinhança e da frente unica das repúblicas irmãs, há de fazer do novos mundo como que uma ilha imensa, que será o reino da paz e o império da ordem, limitado por águas marinhas dentro de dois oceanos.

HOMENAGEM DO EMBAIXADOR DO JAPÃO AO PREFFITO DODSWORTH

RIO, 4 — Por motivo da participação do Imperio Japonez na XIII Feira Internacional de Amostras, o embaixador do Japão no Brasil, sr. Itaro Ishii conforme informamos, homenageou hontem, o prefeito do Districto Federal, sr. Henrique Dodsworth, e o funccionalismo da Prefeitura municipal, com um banquete intimo no Restaurante da Pequena Cruzada.

O salão apresentava-se magnificamente ornamentado com bandeiras brasileiras e japonezas entrelaçadas e caracterisado, em alguns pontos, pela presença de flores e fitas dispostas de maneira typicamente japoneza. A orchestra disposta no fundo do salão, executou trechos de musica do folclore nacional e nipponico.

Um valor! Uma oportunidade!
Um excelente negocio!
Na Colonia Nipponica!
"ANNUNCIOS"
Sirva-se dos
do
"NOTICIAS DO BRASIL"
Rua Fagundes, 196 - Phone 7 4670
Caixa Postal, H. S. Paulo

AS BASES DO PLANO ECONOMICO JAPONEZ

TOKIO, 2 — As bases do plano economico japonez representando a concretização dos principios da economia dirigida, foram, em ordem do dia, focalizadas, durante a conferencia economica do Gabinete, que durou cinco horas, sob a presidencia do principe Konoye.

Esse plano cujo objectivo fundamental é o de livrar o Japão da dependencia economica do mundo occidental, visa assentar as bases da economia nacional nipponica dentro do quadro da esphera de promoção economica da Asia Oriental. Para levar a effeito esse objetivo visado, torna-se indispensavel acabar com o actual systema da economia nacional dependente dos principios do liberalismo, devendo, estes, serem deslocados para o regime da economia dirigida totalitaria

Os ideaes predominantes da vida economica japoneza, devem basear-se em que o interesse collectivo deve prevalecer, com a participação de todos os individuos na sua responsabilidade

A applicação dos capitaes tem que ser garantida da mesma forma porque o emprehendimento particular deve ser egualmente remunerado de maneira justa.

O «standard» de vida dos trabalhadores tambem deve ser garantido como garantido o bem estar dos mesmos, por força de medidas legislativas para premiar aqueles que contribuam para o augmento da producção, por meio de invenções e de melhoramentos de methodos trabalhistas.

O plano reconhece que, cada ramo de actividade nacional deve ser collocado sob a superintendencia pessoal.

O algodão mundial

Os paizes que occupam os primeiros logares na producção mundial de algodão obedecem á seguinte ordem: na America do Norte, os Estados Unidos; na do Sul, o Brasil; na Europa, a Grecia; na Asia, a India; na Africa, o Egypto. Compradas as safras de tres annos, eis o que se apura: Estados Unidos, 1937-1938 18.412.000 fardos; 1938-1939, 11.635.000; 1939-1940, . . , , 11.516.000. Os outros paises pequenos productores da America do Norte contribuiram com 335.219.280.751 e. . . . 305.489 fardos, respectivamente, em relação aos tres periodos. Brasil . . . , 2.017.000, 1.989.000 e 2,094,000, tambem respectivamente: Grecia, 93.615 73.967 e 74.423 fardos. India, 4.942.000 4,574,000 e 4.120,000 fardos; Russia, segundo paiz maior productor da Asia. . . , 3.700.000, 3.800.000 e 4.000,000 de fardos; China, terceiro paiz maior productor, dessa mesma parte do mundo 2.323.000, 900.000 e 627.000 fardos: Egypto 2.259.000, 1.703.000 e 1,785,000 fardos.

Examinadas as cifras, ha uma conclusão importante a tirar: em relação aos paizes de maior volume de producção, Estados Unidos, India, Russia, China, Egypto e Brasil, apenas o nosso paiz apresenta crescimento de producção da presiosa materia, prima, se bem softresse um pequeno collapso, de 1938-1939, para retomas o rythmo progressivo no periodo de 1939-1940.

A queda da producção da China — provavelmente em consequencia da guerra em que se tem empenhado, expressou-se de 2.323.000 fardos, em 1937-1938, para 900.000, no periodo seguinte e para 627.000 na safra de 1939-1940. Por onde se explica, em virtude desse recuo, ter passado a populosa nação asiatica a importar a materia prima do nosso e de outros paizes. Na America do Sul, depois do Brasil é o Perú o maior produtor porém em cerca da sexta parte da nossa producção actual. Na Europa, depois da Grecia, é a Bulgaria que tem apresentado as maiores safras, embora como pequeno productor. A producção nipponica é quasi minima: 994, 1.000 e 1.000 fardos, respectivamente em 1937-1938, 1938-1939, 1939-1940.

MERCADO DA MAMONA

Com o fechamento dos mercados europeus, a exportação da mamona dispõe, presentemente, apenas de dois centros consumidores: o Japão e os Estados Unidos. Até o mês de agosto proximo passado, o preço do produto se manteve na Bolsa de Nova York, em cerca de 52$000 a tonelada, custo e frete, tendo sido vendidas apreciaveis quantidades para o Japão.

Durante o mês de outubro ultimo, em consequencia da falta de transportes, acumularam-se grandes stocks nos pórtos de embarque do pais e o preço começou a declinar, tendo caido a . . . 45$000, no fim do aludido mês.

A safra atual é bem maior do que a do ano passado, esperando-se para o periodo de 1940-41 a maior colheita jamais realizando no Brasil.

A queda dos preços que se observa no mercado interno é resultante do fechamento dos mercados e das dificuldades da navegação para o Oriente, onde poderiamos colocar uma parte dos stocks atualmente sem compradores.

NOTICIARIO ESTRANGEIRO
DO
«NOTICIAS DO BRASIL»
FORNECIDO PELA AGENCIA
ELEGRAPHICA «DOMEI» JAPONEZA

ASPECTOS HISTORICOS DO ESTADO NOVO

SILVIO PEIXOTO

(6)

APARELHAMENTO TERRESTRE

O mesmo cuidado dispensado ás fôrças de mar e ar, têm merecido as fôrças de terra

Todo o Exército, sob a vigilante orientação do general Gaspar Dutra, ministro da Guerra, é uma gigantesca forja de trabalho silencioso e fecundo.

Disciplinado e coêso em torno da figura do Chefe da Nação, o Exército brasileiro não se limita á sua tarefa especificamente militar, mas já vai também desempenhando um papel civilizador e nacionalizador da mais alta importancia em face das peculiaridades geograficas e demográficas do pais.

Na memoravel exposição — síntese dos problemas e soluções da atualidade brasileira, feita pelo Presidente Getulio Vargas a 10 de novembro de 1939, ao inaugurar a conferência dos interventores, disse o Chefe da Nação:

— O Brasil, por índole e educação votado ás artes da paz, tendo resolvido mediante processos conciliatórios, as situações internacionais em que seus interêsses estiveram em jôgo, sente, entretanto a necessidade de preparar-se para qualquer eventualidade.

Obedecendo a êsse imperativo, vem o Govêrno trabalhando e fazendo em multiplos sentidos quanto lhe é possivel com os meios financeiros de que dispõe. E' verdade, também que ainda não houve necessidade de sobrecarregar com tributos a Nação e impor-lhe sacrificios excepcionais. Muitos outros Estados destinam percentagens mais vultosas das suas rendas á preparação militar e fazem despesas proporcionalmente bem maiores. Não nos temos descuidado, a-pesar-da exiguidade dos recursos, de tomar tôdas as providências, pelos vários ângulos em que se apresenta o problema da nossa preparação militar.

Como medida básica alargámos os quadros da conscrição, pela nova lei do sorteio, de forma a conseguir em cada periodo de chamada, número suficiente de reservistas.

Para realizar plenamente essa parte da tarefa foi indispensavel ampliar o quadro de oficiais e aumentar as possibilidades de sua formação com a nova Escola Militar e, simultaneamente criar um quadro de técnicos especialistas, reorganizar o magistério, reajustando, assim, a situação do pessoal ás exigências atuais.

Não se reduzem, entretanto, a êsse sector os trabalhos realizados. O material tem recebido cuidados semelhantes fazendo-se aquisições no estrangeiro, bem como aumentando a produção e aperfeiçoando a maquinaria dos estabelecimentos industriais do Estado, enquanto se preparam técnicos de mecânica, armamento, química industrial e balistica.

Em Itajubá, onde se fabricam armas portáteis de guerra, observa-se, com satisfação a excelência dos produtos e a habilidade de engenheiros e operários bem como o emprego cem por cento de material nacional. Não tardará muito, teremos completado as suas instalações para a fabricação em série de armas automáticas.

A fábrica de Piquete recebeu melhoramentos consideráveis e está aparelhada para produzir pólvora de base dupla, em quantidade bastante ao nosso consumo. Os subprodutos e matérias primas dos vários fabricos dêsse estabelecimento são, em grande maioria, de procedência brasileira.

Essas atividades muito vão contribuindo para anular a nossa dependência dos fornecedores estrangeiros e impulsionar, igualmente, as indústrias extrativas minerais em vários pontos do pais.

O trabalho de reaparelhamento material abrange também as instalações. A Engenharia do Exército executa obras de alcance em fortalezas, quartéis, hospitais e depósitos. Dentre as mais importantes, contam-se a do Hospital Central do Exército, Quartel General da Infantaria Divisionaria da 1.º Região; novos grupos de residências na Vila Militar do Rio de neiro e em Uruguaiana; os quartéis do 16.º Batalhão de Caçadores em Cuiabá; do 19.º na Baia; do 28.º em Aracajú; do 21.º no Maranhão; do 32.º em Blumenau; da Companhia de Fronteiras em Pôrto Murtinho; dos Santo Angelo: os novos edificios das Escolas de Estado Maior e de Técnica do Exército: o novo Laboratório Quimico Farmacêutico e numerosos depósitos de materiais sanitário, veterinário e de engenharia. As instalações em construção do Quartel General do Exército e da nova Escola Militar de Rezende avultam pela sua grandiosidade.

As estradas de ferro e de rodagem construidas pelos batalhões ferroviários, já apresentam um cômputo apreciável. Basta referir o ramal ferroviário de Santiago a São Luiz, no Rio Grande do Sul, as rodovias de Curitiba a Joinville e Passo do Socorro, a Lages, de Vacaria a Passo do Socorro, Lagoa Vermelha a Passo Fundo, de Campo Grande a Boliche Sêco, em Mato-Grosso, e Piquete a Itajuba em Minas, bem como a de Aquidauan a Bela Vista».

世紀の英雄

[illegible]

番伸二
夏目[illegible]

戰場たより（六十五）（二）

踊子といふものをまつたく商品化してゐることに於て、田專務の場合、たしかに大晴れな近代資本家といへるであらう。これに對抗するに大和智津子も、資本家を手玉にとることにより秀でた近代女性といへるのかも知れぬが、岩田達は、彼女をさう思ひたくなかつた。上べは近代的でも良い、然し古風で、つゝましやかな精神をもてる大和智津子と思ひたいのである。だが、それにしても數々の才能をもつた彼女！　前田と智津子の話をひそかに聞いた岩田達が、控室へ戻つて來やうとすると、そこでばつたり牧に會つた。

「もう踊子達は皆歸つて[illegible]つたかい？」

「いゝや、まだ風呂に入[illegible]ゐる踊子もあるらしいよ[illegible]

も大和さんは部屋に殘つてゐるぜ。專務と話してゐる」

最近大和智津子の名を口にすると明かに嫌な顔をする達大が、今夜自分から言ひ出したので牧には不思議でならなかつた。いつか、

「大和智津子を藝術の解る踊子だなんて思つてゐたが——大間違ひ、あれは飛んでもない俗物だよ」とあれ程智津子贔屓の達大が突然言ひ出して驚かされたことがあるが、以來智津子のことを言ふと厭な顔をするのであつた。これは何かあつたなと思つてゐると果して達大は人のよささうな表情を曇らして、

「僕はあの人を誤解してゐたよ。僕は智津子つて女は普の女のやうに着物を欲しがつて、いゝ家に住んで、要するにブルジョアの生活をしたいのだらうと思つてゐたんだが——」「へえ、君はさう思つてゐたかい。僕は君が一度吐き出すやうに彼女を俗物呼ばりした時こつちのきゝ違ひだと思つてゐたんだ。だつて君はそれ以前始終大和智津子こそは美術も音樂も舞踊も解るすぐれた女だと言つてゐたからねえ」

牧はわざとからかふやうに言ふと達は熱心な顔で、

「さうなのだ。矢張りさうなのだ。さつき彼女は部屋でたつた一人でそつとナタリゴンチャロフの繪を眺めてゐるじやないか。それは神々しい位心の奥からの熱情、藝術に對する熱情に震へてゐる彼女の姿なのだ。僕は彼女の所へ行つたのだが呼びかけるのが氣の毒でならなかつた。もつと——ゴンチャロフの畫を見詰めさしておきたかつた。屹度あの姿をゴンチャロフ自身にみせたら、たゞちに描き出すだらうと思へる程美しかつ[illegible]

かりにして熱心に話し出した

これには、牧とてもよく同意出來る。

「あの本當に藝術に夢中になつてゐる姿をみたら彼奴などはたまげてやれ四千円の指環をどうのなど、言ひ出せやしない。大體彼奴などは大和さんを追ひ廻す柄じやない。もつと下種な女を追つかけ廻してゐりやいゝんだ。——」

「彼奴つて誰のことだい？」

牧が訊くと達大ははつ、として暫く興奮して喋りすぎてしまつたのを後悔してゐるらしかつたが、

「專務のことさ、」

唾でもひつかけたいやうにとげ〳〵しく言ひはなつた。

達はいつか專務が智津子を口説くのにソロバンの唄をもつてしてゐたのを勿論誰にも話さなかつたので、牧には今まで急に智津子を酷評し出した達大が解らなかつたが今やうやく解り出した。

「專務と言へばね。戰地にゐる宮崎京平君が專務に誠を言ひ寄されてね」